

# 能登復興へ珠洲で工場再建 建設資材のキョーワ「他地域で代替不可」－能登再興制約の中で⑤

2025/08/26 05:00 日本経済新聞電子版 1724文字

2024年の地震と豪雨に加え、8月中旬にも大雨の被害に遭った石川県能登地域。復興の歩みは遅いが、事業の本格再開に向けた投資の動きも出始めた。インフラや医療では新たな技術や仕組みを試す例もある。人手不足など様々な制約の中で、地域再興の糸口を探っている。

能登半島の先端、石川県珠洲市で約10億円を投じる工場の建設が始まった。建設資材会社キョーワ（大阪市）の「能登縫製工場」だ。工事現場で足場を覆い塗料の飛散を防ぐメッシュシートなどを生産する。地震で損壊した旧工場の解体が25年5月に終わり、再建に着手できた。26年3月末に稼働する。

「能登の人のきめ細かい作業は他地域で代替できない。工場を移す気はなかった」。神谷邦雄社長は話す。同社は珠洲市と同県能登町に計11工場を持つ。繊維製の建設資材を生産するにあたり、神谷社長の父が漁網の手入れのノウハウを持つ漁師町を探し、1970年に珠洲に拠点を置いたのが最初だ。

能登は全社の生産量の65%を占める生命線。地震後、能登の従業員250人のうち約50人は働く意思があるのに住居に被害が出て地元を出ざるを得なくなった。同社は石川県南部にある倉庫などを一時的な生産拠点とし、働く場を作った。新工場は震災前と同じ40人規模で立ち上げる。神谷社長は「いずれは50人に増やし、以前より多く生産したい」と話す。

能登では損壊した家屋や事業所が長く残り、復興が遅いとされてきた。7月末時点の公費解体の実績は78.3%と8割に近づき、事業者も徐々に先を考え得る環境になりつつある。

石川県の「なりわい再建支援補助金」の交付対象のうち、被害が甚大だった珠洲市や輪島市など奥能登2市2町の事業者の比率は24年12月時点で約20%。25年8月には29%近くまで増えた。興能信用金庫（石川県能登町）の田代克弘理事長は「小さな事業者にもなんとか前を向こうという雰囲気が出てきた」と話す。

だが様々な制約が行く手を阻む。最大は人手不足だ。ハローワーク輪島の6月の有効求人倍率は1.32倍と前月比0.11ポイント上がり、0.69倍だった前年同月以降、上昇基調が続く。全国の25年6月の有効求人倍率も1.22倍で、熊本地震時（16年、1.36倍）よりは低いが東日本大震災時（11年、0.65倍）を大きく上回る。全国から人をかき集めるのも難しい。

午後3時に営業終了――。虹色のバウムクーヘンなどが人気で全国から注文が来るメルヘン日進堂（同県珠洲市）は地震後、閉店を2時間早めた。震災で7人の従業員のうち3人が退職した。25年初めにようやく元の人数を確保できたが「習熟に時間がかかる。被災地での生活は大変で労働時間の面でも配慮が必要」（石塚愛子社長）と考えた結果の時間短縮だ。

祖業の和菓子は約50品から2～3品に絞り込み、百貨店への卸販売もやめた。機会損失もあるが「人手が増



キョーワは珠洲市と能登町に計11の工場を持つ。細かい手作業で繊維製の建設資材をつくる

人手不足・資材高が復興の制約に				
年	2025	1995	2011	2016
出来事	現在	阪神・淡路大震災	東日本大震災	熊本地震
有効求人倍率	1.22倍	0.63	0.65	1.36
建設資材物価指数（2015年=100）	142.6	95.4	95.5	99.3

（注）建設資材物価指数は「建設総合」の値、2015年を100とした場合。25年の有効求人倍率は6月、物価指数は7月

えない中、持続的な経営の仕組みが必要」(同)と決断した。「8番らーめん」を奥能登で3店経営する榎木幸雄氏は今秋、初めて外国人従業員を雇う準備を進めている。「今までと同じでは経営を続けられない」と話す。

もう1つの大きな制約は建設資材の高騰だ。建設物価調査会(東京・中央)の建設資材物価指数によると、幅広い資材を包含する「建設総合」(2015年を100)は25年7月時点で142.6。11年の東日本大震災時の95.5、16年の熊本地震時の99.3に比べても大幅に高い。加えて、24年の地震と豪雨、25年8月中旬の大雨と相次ぐ災害も、事業再建の制約になる。

炭製造のノトハイツ(石川県珠洲市)は8月、金属製の炭焼き窯を調達した。長年使った土石製の窯は震災で壊れて使用不能になった。周辺では土砂崩れも頻発し、移転を検討中だが「見積もりがなかなか出てこない。早く生産を再開しなければ、経営体力を削られる一方」(大野長一郎社長)。工場移転の際に分解・移設できる金属窯を使って生産を再開する。

同社の地元産クヌギを使う製品は断面が菊の花に似ていることから「菊炭」と呼ばれ、全国の茶道家が買い求める。能登ならではの産品を手がける様々な事業者が、制約を振り払いながら前に進めるか。現在はその分岐点にある。

#### 【連載 能登再興 制約の中で】

- ④能登復興、千葉から二次災害防止の建機操作「新技術吸収の好機」
- ⑤能登復興、1次産業中心に価値創出 珠洲市長・興能信金理事長に聞く

#### 【関連記事】

- ・能登の和倉温泉、再開25% 資材高騰と人手不足が壁に
- ・能登半島地震の爪痕、観光資源に 隆起海岸や被災ストーリー
- ・能登半島、人口減加速で学校や交通網縮小 地震から1年

許諾番号30105147 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。  
本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。  
本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。  
Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.